

令和3年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	15	学校名	県立水戸第一高等学校				課程	全日制		学校長名	高村 祐一					
副校長名	石井 伸一		教頭名		細貝 雅之		柴崎 孝浩		事務室長名	飯岡 孝行						
教職員数	教諭	60	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	4	実習教諭	1	事務職員	5	技術職員等	3	計	82
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	157	127	178	142	165	157			500	426	23				

2 目指す学校像

- ・授業を中心とした、意欲的で活気ある学習活動を展開する学校
- ・生徒が特別活動（学校行事、ホームルーム、生徒会活動）、部活動など多様な活動機会の中で切磋琢磨し、能動的な経験を蓄積しながらたくましく成長できる学校
- ・生徒一人ひとりの進路希望実現に貢献できる学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析					課題	
大学進学	【過去5年間の大学入試結果概要】*（ ）内は過年度卒を含めた数字 R3.4.1現在					<ol style="list-style-type: none"> 1 教科指導をより一層充実させ、各教科・科目の目標を達成させると同時に、生徒一人ひとりの進路志望実現に必要な学力を身に付けさせること。 2 科目選択に関するガイダンスを充実させるとともに、広い視野から将来を見据え、高い志をもって大学進学を考えるよう指導すること。 3 3年間を見通した進路指導を実施し、早期に受験態勢に入れるように工夫・改善すること。 4 国公立大学個別試験・私立大学試験を勝ち抜くための確かな学力の養成のため、不断の授業改善に取り組むとともに、大学別研究会の充実など個別の入試に的確に対応する精緻な学習プログラムの構築を図り実行すること。 5 2021年実施の「大学入学共通テスト」に十分に対応できたその方策を、教職員の共通理解のもとで、継続実践していくこと。 	
		H29	H30	H31	R2		R3
	国公立大学・準大学合格者数	130 (212)	128 (188)	129 (204)	162 (247)		185 (249)
	国公立・準大学医学部(医)合格者数	3 (8)	7 (12)	5 (9)	11 (20)		11 (23)
	私立大学医学部(医)合格者数	3 (18)	2 (12)	1 (13)	2 (33)		6 (16)
	難関私立大学合格者数	39 (98)	27 (72)	31 (68)	33 (77)		32 (51)
	実合格率(全体)	69.6	62.9	64.5	77.2		78.5
	実進学率(全体)	62.5	55.0	57.5	68.8		69.4
	<ol style="list-style-type: none"> 1 国公立大学・準大学お合格者数については、現役生は185名で過去20年を遡っても最多となり、総数も249名と昨年から2名の増加となった。また、難関大学（旧帝国大学+東工大+一橋大）については、総数で88名合格した。東京大学については、現役20名、既卒3名で計23名合格し、茨城県内1位、全国公立高校の中でも6位となった。 2 医学科については、国公立大学・準大学に現役11名、既卒12名の計23名が合格し、東京医科歯科大をはじめ、東北大、千葉大（2名）、さらに筑波大に5名と難関大医学科に多数合格した。また、私立大にも慶應大（2名）、自治医科大など計16名が合格した。 3 早稲田、慶應、上智の難関私立大学については、各大学が合格者数を絞る中、本校の合格者数も以前よりは減少している。 						

特別活動等	<p>1 クラスマッチ・学苑祭・歩く会等の行事は、生徒が主体となる各実行委員会を組織し生徒の自主的な運営のもとに活発に行われている。</p> <p>2 部活動は体育部16団体、文化部16団体、同好会4団体が活動しており、加入率もたいへん高く、9割を超えている。体育部は関東大会に陸上競技部が出場している。文化部は全国大会に吹奏楽部・放送部が出場している。</p> <p>3 ホームルーム活動を中心に、自己の変容や成長を自己評価できるようにしている。その際、生徒にとっては自己理解、教員にとっては生徒理解を深めるためのものとなるよう努力している。</p>	<p>1 毎月の定例生徒集会（全校）の運営は生徒会及び集会委員会で行っているが、企画力を向上させる指導を充実させる。</p> <p>2 各部・同好会活動の中で、競技力の一層の向上を図るとともに、普段の学校生活の中でもリーダー的な存在になるような人材育成にも力を入れる。</p> <p>3 学習のみ、学校行事のみの自己評価表とならないよう、学校生活全体及び家庭、地域を含む内容とする。</p>
働き方改革	<p>1 80時間以下の教職員数 65名（令和2年6月）→ 69名（10月） 平均超過勤務時間数 39:52（"）→ 38:33（"）</p> <p>2 週休日及び祝日における学校での部活動（令和2年6月、10月；調査対象者数25名）8時間以下の教職員数 6名 → 7名 コロナ禍による部活動の自粛や制限は、超過勤務時間の縮減をもたらした。</p>	<p>1 超過勤務時間数は減少しているが、今後も超過勤務者への声掛け等を継続する（月45h、年360h以内を目指す）。</p> <p>2 会議資料のペーパーレス化、進行の効率化を図る。</p> <p>3 校務分掌の見直しと検証を行う。</p>

4 中期的目標

<p>1 適切な選択科目・学校設定科目の設定やシラバスの作成により、単位制の利点を生かした学習指導の一層の充実を図るとともに、主体的で積極的な学習を育む魅力ある授業を創造する。</p> <p>2 社会の変化に対応し、茨城から世界に羽ばたく人材、グローバルな視野を持って地域社会の発展に貢献する人材を育成する。</p> <p>3 同窓会のネットワークも活用し、各界の第一線で活躍する講師による講演会を開催するなど、あらゆる機会を通じて生徒の進路意識を高揚させるとともに、視野を広げ、高い志を涵養する。</p> <p>4 併設中学校開校を機に、目の前の課題に効率的に向き合うための校務分掌を再編・整備する。</p>

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
教育課程の工夫改善と学習指導の充実	<p>① 新学習指導要領の告示及び大学入学共通テストを踏まえ、教育課程の再検討を進める。</p> <p>② ICT機器（タブレット及び電子黒板）を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。</p> <p>③ コマ数を拡充した夏季課外を円滑に実施し、生徒の進路希望実現に資する学力の向上を図る。</p> <p>④ 60分授業の効果を高めるために、さらなる授業の質の向上を目指して、授業に係る研修機会の確保・充実に努める。</p>
進路意識の高揚と確かな学力の養成による進路希望の実現	<p>⑤ 難関大学（旧7帝大+東工大+一橋大）や国公立大医学部医学科等への進路希望実現を支援し、現役進学率の向上及び既卒生を含めた国公立大学合格者数の増加に努める。</p> <p>⑥ 卒業生の協力を得るとともに、大学や病院と連携して高い志を持って医学部に進学し、将来医師として社会に貢献できる人材の育成に取り組む。</p>
健康安全指導の充実	<p>⑦ 健康安全に留意し、心身ともに健康で、生き生きとした学校生活を生徒が送れるよう指導する。</p> <p>⑧ 職員が健康で職務に従事できるよう業務精選に取り組み、評価面談で確認する。</p>
特別活動等の充実	<p>⑨ 特別活動（学校行事、ホームルーム、生徒会活動）、部活動等の充実をはかり、創造性を養い、自主自立の精神の確立に努める。</p> <p>⑩ 学校行事を適切に配置し、時に臨機応変に対応することにより、各行事の円滑な実施と充実に努め、新たな伝統の創造を目指す。</p>
将来を見据えた教育活動の拡充、特に医学コースの充実や中高一貫教育校の円滑な運営	<p>⑪ 社会の変化に対応し、本校から世界に羽ばたく人材、グローバルな視野を持って地域社会の発展に貢献する人材の育成のため、中高一貫教育や医学コースの情報の収集と発信を行いながら組織の拡充に努める。</p>